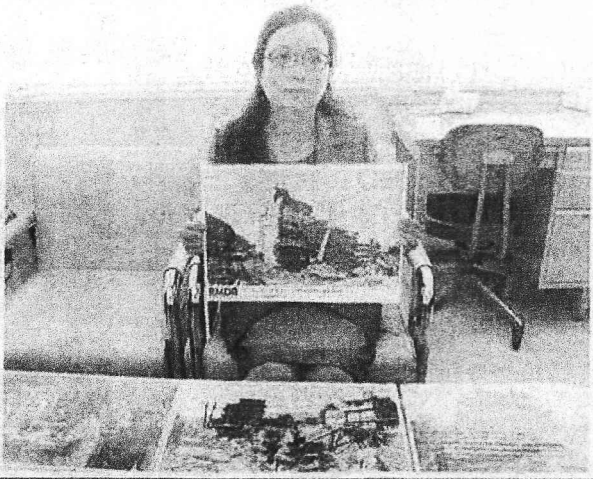
ネパール大地震で活動の県立大研究員

「家全壊 テントが必要」

総社市訪ね支援訴え

ネパール大地震の被災者支援に携わった県立大（総社市窪木）の外国人客員研究員シュレスタ・ジョシ・アルチャナさん（40）＝ネパール出身＝が19日、総社市役所を訪れ、被災地への支援を訴えた。

シュレスタ・ジョシさんは、国際医療ボランティアAMDA（岡山市）の調整員として1日から約2週間、現地で活動。AMDAの医師の通訳を務めたり、被災状況を岡山市の本部事務所に報告したりした。



写真パネルを手にネパールへの支援を呼び掛けるシュレスタ・ジョシさん

総社市役所でシュレスタ・ジョシさんは、現地を撮影した写真パネルを片岡聡一市長に示し、「家が全壊して助けを求める被災者にどう言葉を掛けたらいいか分からなかった」と報告。雨期を迎える被災地では、家を失った人々の寝る場所を確保するためテントが必要となっている状況を説明した。

シュレスタ・ジョシさんは「災害に日ごろから備える大切さを実感した。ネパールに手を差し伸べてほしい」と呼び掛けている。

市は、市役所玄関や公民館など21カ所に募金箱を設けている。（民直弘）